

国際シンポジウム

「岡倉天心ー欧米における東洋文化思想のひろがり」

開港間もない横浜で生まれた岡倉天心は、師のアーネスト・フェノロサの日本美術研究を助けるなかで日本美術に開眼し、古美術の保護、美術教育、東洋文化思想の発信など急激に変化する世の中において、大志を抱き奔走しました。本シンポジウムは天心の多岐にわたる功績のなかで、特に欧米における東洋文化思想の発信に焦点を当て、各講師による発表とパネルディスカッションを行い、天心の東洋観、または彼が目指した理想の姿を求め、世界における天心の立ち位置を探ることを目的とします。

日時：11月2日（土）13:30～16:30

場所：福井県国際交流会館 地下・多目的ホール

先着 300名（申込不要） 入場無料 [>>アクセス](#)

タイムテーブル

13:00～13:30 受付

13:30～13:35 主催者 挨拶

13:35～13:50 特別講演 「今も生きる天心」
手塚 雄二 福井県立美術館特別館長 日本美術院同人・理事
東京藝術大学美術学部絵画科日本画教授

13:50～14:20 基調講演 「日本の天心、世界の OKAKURA」
古田 亮 東京藝術大学大学美術館准教授

14:20～14:25 休憩

14:25～14:45 発表 「Ernest Fenollosa: Tenshin's Teacher Teaches Japanese Art to the West」
F e l i c e F i s c h e r (フェリース・フィッシャー)
フィラデルフィア美術館東洋美術部長
ルーサー・W.ブラデー日本美術担当学芸員

14:45～15:05 発表 「岡倉覚三の東洋文化発信」
清水 恵美子 茨城大学人文学部・大学教育センター非常勤講師
五浦美術文化研究所客員所員

15:05～15:10 休憩

15:10～16:30 パネルディスカッション 古田氏、フィッシャー氏、清水氏による
司会：芹川貞夫（福井県立美術館・美術専門員）

■ 講師紹介



手塚雄二 TEZUKA, Yuji 東京藝術大学美術学部絵画科教授（日本画）
福井県立美術館特別館長

日本画家。1982年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。同大学で故平山郁夫氏に師事。90、91年院展日本美術院賞（大観賞）受賞。92年院展同人。94年院展文部大臣賞。2000年「手塚雄二屏風絵展」院展出品作、内閣総理大臣賞。04年より東京都美術館運営委員。13年より福井県立美術館特別館長に就任。

■ パネリスト紹介



古田 亮 FURUTA, Ryo 東京藝術大学大学美術館准教授

1993年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程中退。東京国立博物館、東京国立近代美術館を経て、2006年東京藝術大学大学美術館助教授、現在准教授。04年「琳派 RINPA」展、06年「揺らぐ近代」展（倫雅美術奨励賞受賞）13年「夏目漱石の美術世界」展などの展覧会を企画。著書に『俵屋宗達』（平凡社新書、サントリー学芸賞受賞）、『高橋由一』（中公新書）、『美術「心」論』（平凡社）など。



Felice・Fisher フェリース・フィッシャー
フィラデルフィア美術館東洋美術部長

現在、ルーサー・W・ブラデー美術館日本美術担当学芸員であり、またフィラデルフィア美術館の東アジア美術を専門とする学芸員。1972年に美術館の一員になってからは、数々の中国美術および日本美術の展覧会を担当してきた。そして現在は2015年にフィラデルフィアで開催予定の狩野派の画家たちをテーマとする展覧会の準備に取り組んでいる。



清水 恵美子 SHIMIZU, Emiko
茨城大学人文学部・大学教育センター非常勤講師
五浦美術文化研究所客員所員

2008年度お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了、博士（学術）
平成24年度（第63回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（評論等部門）受賞
著書『岡倉天心の比較文化史的研究—ボストンでの活動と芸術思想』（思文閣出版、2012年）、『五浦の岡倉天心と日本美術院』（岩田書院、2013年）